

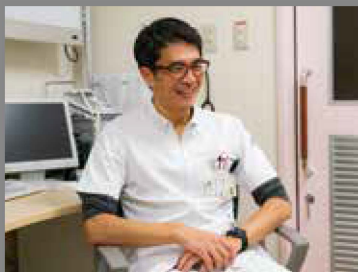


幅広い分野の診療を行う家庭医として、 安心とエビデンスに基づく医療を提供

北海道を中心に質の高い家庭医療を提供する医療法人北海道家庭医療学センターでは、グループ各施設の日常診療から医師の研鑽など多くの場面で、臨床意思決定支援リソース「UpToDate®」を利用しています。同センターの副理事長兼更別村国民健康保険診療所所長を務める山田 康介医師に、UpToDateに対する評価や具体的な利用方法についてお話を伺いました。

家庭医 または 家庭医療専門医の日常診療における UpToDate

山田医師によると、UpToDateは現在月2回開かれる医師の学習会における『What's New in Family Medicine (家庭医療分野の最新情報)(*1)』の文献抄読会や、日常の臨床上の疑問解決に利用しているとのこと。また、診療所外でも、個人IDを使って各々のデバイスで学習することができ、医師個人の研鑽を積むことにつながっているのだそうです。



「かつての『何でも知っている医師が、何も見ずに患者さまに答える時代』から、今は『患者さまと一緒にブラウザーを見ながら診察する時代』になっています。」

北海道家庭医療学センター
副理事長兼更別村国民健康保険診療所所長
山田 康介

興味深いことに、最近注目されている「共有意思決定(シェアード・デシジョン・メイキング)」もUpToDateの利用方法に影響を与えています。その一つが「診察中に患者さまと一緒に疑問解決のツールとして利用する」というもの。山田医師は、かつての『何でも知っている医師

が、何も見ずに患者さまに答える時代』から、今は『患者さまと一緒にブラウザーを見ながら診察する時代』になっているといいます。例えば、普段飲んでいるサプリメントや他医による処方薬に対して、画像検索を行いながら患者さまとの会話をひも解いたり、紹介先の専門医からの説明が難しかったと話す患者さまや専門的な治療が必要な患者さまに説明するとき、一般検索サイトでの検索結果の信頼性に疑問が生じるときなどには、UpToDateで検索を行い、専門的な医学情報の中から要点を抜粋して患者さまに説明することもあるといいます。「ここ10年で診察スタイルは大きく変化しました。このような診察スタイルは、当グループ内全ての施設、全ての医師が、日常的に行っています」。

家庭医に必要なのは「真のEBM」

山田医師とUpToDateとの出会いは、20年ほど前にさかのぼります。当時、海外ではすでに「エビデンスにもとづいた医療(EBM)」が一般的でしたが、日本では経験主義が根強く、EBMという考え方がやっと広がりを見せた頃。かつてカナダで家庭医療を学んだ医師に師事し、最新の信頼性の高い情報を調べて臨床上の疑問点を解決することを通じ、「EBMを学ぶなら」と勧められたのが、UpToDateだったそうです。

その時代を振り返り、山田医師はこう語ります。EBMを勉

強しようとする過程で、当時日本で使われていた教科書は、EBMの視点から見てあまり質の良いものではありませんでした。だからといって、いきなり医学研究論文から知識を蓄えることは難しく、『専門家がエビデンスを整理・吟味して示すレビュー』が必要とされ始めていました。それに応えられるのが、UpToDateだったのです。

山田医師の指導医であった葛西 龍樹医師(現福島県立医科大学)は、EBM発祥の地、カナダでの家庭医療の研修プログラムを習得し、本当の意味での「家庭医療科の専門医」を取得された方です。葛西医師は研修中、家庭医療の学問的な祖とされるイアン・マクウィニー医師の薫陶を受け、「日本でも家庭医療を根付かせて欲しい」という思いを託されたのだそうです。そして葛西医師を師と仰ぐ山田医師も、その後を追う思いがあったといいます。

分からないことをすぐに調べるのが家庭医療の鉄則

家庭医療は、日本での診療科としては総合診療科と呼ばれています。患者さまが最初に受診する医療機関として「かかりつけ医」が一般にも浸透していますが、これは診療科ごとに区別されたもので、家庭医とは別のものです。家庭医療(総合診療)は、いわば「何でも診る診療科」で、内科や整形外科などそれぞれの診療科の領域となる前の段階から、患者さまとその家族に関わる医療のことです。小児から高齢者、内科、整形外科、メンタルなど、あらゆる領域における診療を行うため、自然と「家族全員を診る」というスタンスになるそうです。

山田医師はアトピー性皮膚炎の子どもとメンタルに不調を抱える母親を同時に診療、というようなケースもよくある。このような背景がありますから、診療を行う上で「知らないこと」に出会うのは日常茶飯事なのが、家庭医療。難しい、だからこそ面白い領域でもあるのです。家庭医療を実践する上で大切なことは、分からないこと全てを他科の専門医に任せるのではなく、家庭医療分野でやれることはないか学習することが大切で、そこでUpToDateが大いに役立ってきたといいます。

山田医師は医師になって4年目に、現在の勤務先である更別村国民健康保険診療所の所長になりました。後輩医師と二人で赴任した当時のことを振り返り、「診察した患者さまに見合う項目全てについてお互いに

UpToDateで調べ、日本語訳にして学びました。当時の資料は、今でも残っています。学ぶことで未知のものが既知に変わり、診療の幅が大きく広がりました。そして、患者さまには安全かつエビデンスに基づいた質の高い医療を届けて来た、という自負があります」といいます。

実は、山田医師が個人で利用を始めた頃のUpToDateは、PCにインストールしたアプリケーションと、四半期に1度海外から送られてくるCD-ROMを利用するものでした。その当時と比べると、利用しやすさが大きく変わったと山田医師はいいます。「現在のUpToDateはウェブ版ですから、いつでもどこでも利用でき、常に最新情報にアクセスできます。しかも電子カルテと連携させることができるため、診察中でも思い立った時すぐに、電子カルテの画面にあるアイコンをクリックするだけで質の高い医学情報を手に入れることができます。おかげで、臨床上の疑問にすぐに答えられるだけでなく、調べた情報を応用したり記録に残すのも容易です。その意味で、UpToDateはまさに、「診療の傍らにあるべきもの」なのです」。

「診察中でも思い立った時すぐに、電子カルテの画面にあるアイコンをクリックするだけで質の高い医学情報を手に入れることができます。UpToDateはまさに、「診療の傍らにあるべきもの」なのです。」

北海道家庭医療学センター
副理事長兼更別村国民健康保険診療所所長
山田 康介



北海道家庭医療学センターについて

北海道家庭医療学センターは、道内に8つの診療所と1つの総合病院拠点(総合診療科)、さらには道外にも4つの拠点・連携施設をもつ医療法人です。1996年に北海道・室蘭の地で産声を上げ、2008年に医療法人化されました。「良質な家庭医療の実践」「良質な家庭医の養成」「北海道および日本の家庭医療の発展に対する貢献」の3つのミッションを掲げ、家庭医療の実践と家庭医を含む医療職の養成に尽力してきました。電子カルテシステムのクラウド化を契機に、2019年後半より法人内全ての拠点でUpToDateが導入されました。

*1 UpToDate に新たに追加された臨床レビューの中から、執筆者・編集者が重要だと考えるものを紹介するコンテンツ